

空港内における航空機火災の実例 (1)

1. はじめに

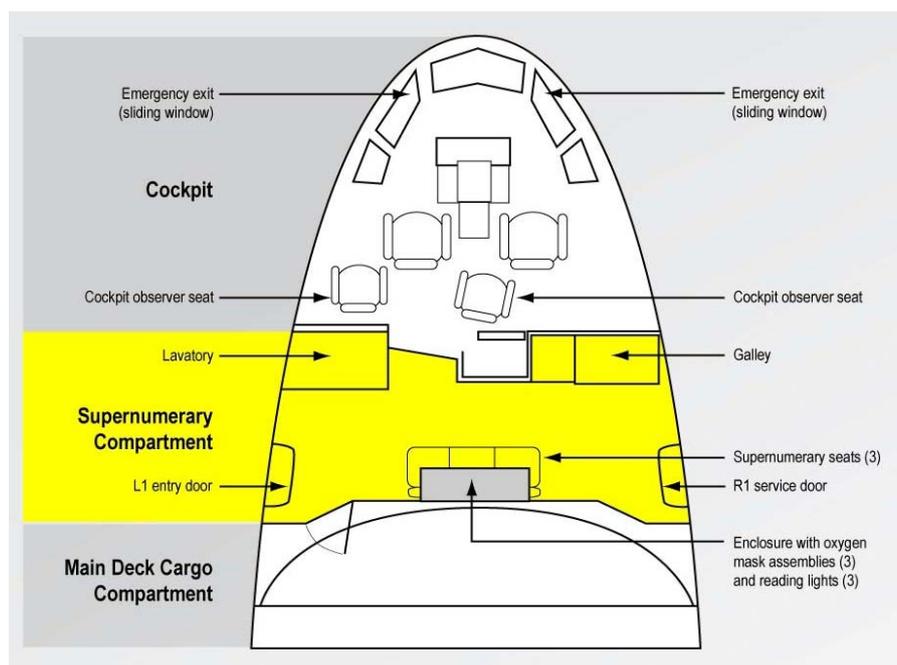
2013年7月12日ロンドン・ヒースロー空港で駐機中のB777の機体後部より出火したインシデントがありました。今回は、過去の空港内における航空機火災の顕著なものを挙げてみます。

2. サンフランシスコでのB767貨物機火災

2008年6月28日サンフランシスコで出発準備中であったABX社のB767-200の機体前部で火災が起きました。副操縦士は操縦席のうしろL1ドアとR1サービスドアの間にある貨物監督員席 (Supernumerary Compartment) に異常がないことを確かめたのち、操縦席に入りました。エンジン始動前のチェックリストを進めていたとき、破裂音と空気の漏れるような音が操縦席の後方より聞こえました。状況を確認するため、副操縦士が操縦席ドアを開けると、貨物監督員席の天井あたりが激しく燃えていました。

パイロット二人は、管制塔に火災発生を知らせ、Fire and Evacuation Checklistを終えたのち、左右のSliding Windowより脱出しました。

【B767 機体前部を上から見た概念図】



(次頁へ続く)

3. 出火原因と損傷

天井近くの配線が焼けて床に落ちている状態であったため、正確な順序は分からないものの、貨物監督員席の酸素配管付近の配線がショートして配管を破断させ、多量の酸素が漏れて大きな火災となったと推定されています。整備記録では、この機体の酸素系統の漏れを何度も記録されています。しかし、この火災と直接結びついたとはされていません。

酸素系統配管のプラスチック製の部分には金属コイルが内蔵されており、プラスチック材料が電気を通すものであったことも、ショートの要因となったようです。L1 ドアは開閉機構が熱で変形し開くことが出来ない状態となっていました。Sliding Window からの脱出は良い判断であったと思われます。

4. 改善を要する項目

酸素系統および電気配線に関し、製造、整備等について多くの Recommendation が出されました。貨物監督員席等のスペースには Smoke Detector を装備することも推奨されました。（この件では Lavatory の Smoke Detector は作動しています。）

ABX 社には同じ故障が続く場合、状況を把握し適切な処置をすることが求められました。

【上から見た B767 前部胴体。ステップは L1 ドアについています。】

